約47mm

約47mm

約30mm

約30mm

タイトル　約14ポイント

著者　日本語約13ポイント

英語約10ポイント

概要　約8.5ポイント

本文　約9ポイント

約6mm

A4見本※会誌はB5となります

「交通工学」報告・紹介の原稿の書き方及び書式見本について

Detailed Note on the Preparation of Papers for “Traffic Engineering”

|  |  |
| --- | --- |
| 交通 太郎※，環境 花子※※  KOUTSU Taroh, KANKYO Hanako |  |

|  |
| --- |
| 「交通工学」の報告・紹介への原稿は，この書式見本に示す体裁により作成してください。原稿は電子ファイルとし，Microsoft Word形式を標準とします。そのほかの形式についてはご相談ください。そのほぼ中央の横幅150mm，縦高さ203mmの紙面上に，一行22文字×41行×2段組とします。A4用紙にこの紙面を中央に位置するには，左右マージンが30mmづつ，上下マージンが47mmづつとなります。本文は明朝体 (英文はTimes New Roman) 約9ptとします。一ページ目には，表題，著者名，概要及び脚注として著者の所属などと連絡先を記して下さい。概要は中央寄せ，約8.5pt，横一行40文字で書いて下さい。概要の文字数は400字程度とします。従って概要は全部で9～10行程度となります。この下に内容を十分に表すキーワード3～5語を書いて下さい。 |
| キーワード 交通需要分析　パネル分析　交通シミュレーション |

1. はじめに

報告・紹介では本文の書き出しは，この位置からとします。本文の文字の大きさは約9ポイントとします。

一ページ目の初めに表題と著者名，次に論文の概要とキーワードが示されており，最下行に著者の会員種別，TOP/TOE資格，所属などと連絡先（電話番号など）が示されていれば，一ページ目のこうした本文以外の部分の体裁については，そのレイアウトは多少簡略化してもかまいません（注１）。なお原稿の提出時に著者の所属に変更がある場合，（現所属）を追記しても良い。

|  |
| --- |
| ＊正 会 員　TOE　交通大学工学部土木工学科教授（TEL: 000-000-0000）  ＊＊学生会員　TOP　環境大学大学院交通工学専攻（TEL: 03-0000-0000，FAX: 03-0000-0000，e-mail: ××@jste.or.jp） |

2. 書き方の原則

2.1 文章および章・節・項

文章は口語体により，英文もしくは片仮名書きを必要とする部分以外は漢字まじり平仮名書きとして下さい。私的な表現，広告，宣伝に類する内容の記事は避けて下さい。

章，節，項の見出しは，次のように統一します。書体はゴシック体（英文はArial）としますが，出力の制約で不可能な場合は明朝体でも構いません。これ以外の小項目はなるべく避けて下さい。

　　1．，2．，3．　‥‥‥‥‥章

　　1.1，1.2，1.3　‥‥‥‥‥節

　　1），2），3）　‥‥‥‥‥項

章見出しの前後には一行空行を取って下さい。また節見出し，項見出しについては，間に空行を取らないで下さい。



写真-1　写真のレイアウト例

なお，各ページの下側，欄外，中央にページ番号を付けるようにして下さい。



図-1　図のレイアウト例3)

2.2 式および記号

式や図に使われる文字，記号，単位記号などは出来るだけ常識的な記号を使い，必要に応じて記号の一覧表を付録として本文の最後につけて下さい。数式はできるだけ簡単な形でまとめて，式の展開や誘導の部分を少なくして文章で補って下さい。式を書く場合には，記号が最初に現れる箇所に記号の定義を文章で表現して使って下さい。また，同一記号を2つ以上の意味で使うことは避けて下さい。

式には（１），（２），（３）のように丸かっこ付きの式番号を，右寄せでつけて下さい。また，原稿では本文と式の間に，上下1/2改行分程度のスペースを入れて下さい。以下に例を示します。

 （１）

式（１）において，*Q*は交通量[台/時]，*K*は密度[台/km]，*V*は速度[km/時]を示す。

 （２）

数式の記号の書体はイタリック体とします。本文で記号を引用するときには同じ書体として下さい。

表-1　表のレイアウト例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設計速度[km/h] | 視距[m] | 縦断曲線半径[m] |
| 120 | 210 | 4,000 |
| 100 | 160 | 3,000 |
| 80 | 110 | 2,000 |

2.3 単位系

単位は原則としてＳＩ単位を用いて下さい。単位に，従来単位系を用いる場合は，かっこ書きでＳＩ単位系を併記して下さい。

例：単位体積重量　1 kgf/cm3 (9.8 N/cm3)

2.4 図，表，写真

1）図，写真の表題はその下に，表の表題は表の上につけ，それぞれ通し番号を付けて下さい。

2）図，表，写真の横には本文は組み込みません。

3）原稿には，図表の判読性も考慮して大きさやレイアウトを考えて下さい。また図表内の文字の大きさは6pt以上とします。記号類は小さすぎないように少し大きめに表示して下さい。線の太さについても注意して下さい。なお，機関誌はB5サイズとなるため，縮小印刷されます。

4）図，表，写真を他の著作物から引用する場合は，出典を必ず明記し，かつ必要に応じて原著者の了承を得て下さい。

5）機関誌掲載時は白黒印刷となります。カラー印刷は受け付けられませんので，図，表，写真は白黒印刷でも判読可能になるように留意して下さい。

2.5 参考文献

参考にした文献は引用順に番号を付けて本文末にまとめて記載し，文中にはこの例のように1)，その番号を右肩上に示して文末の文献と対応させて下さい。

参考文献は，著者名，論文名，雑誌名（書名），巻号，ページ，発行年の順とします。英文の雑誌の場合は姓，イニシャルとします。単行本の場合は，著者名，書名，ページ，発行所，発行年の順とします。英文の雑誌の場合の論文名，及び英文の単行本の書名は各単語とも頭文字は大文字として下さい。また著者数が多過ぎる場合には，第二著者以降を"ほか"，"et. al."として省略しても構いません。その他書き方の詳細については，この書式見本を参考にして下さい。

3. ページ数

原稿のページ数は，原稿の区分により異なり，巻頭言とオフィス紹介，研究室紹介が原則2ページ，講座が8ページ，論説，報告・紹介等の区分が原則4ページとなっています。これを超える場合，不足する場合はご相談ください（偶数ページが望ましい）。

（注１）「報告・紹介」で編集委員会からの依頼原稿の場合には，特別に手書き等の原稿でも受け付ける場合があります。

（注２）こうした注記，及び謝辞や付録がある場合は本文の後，参考文献の前とします。

参　考　文　献

1) 羽藤英二，谷口正明，杉恵頼寧；"経路選択時の交通情報に対するドライバーの反応"，交通工学，Vol.30，No.1，pp.23～32，1995

2) 森健二，斉藤威；"交通制御によるNOx・CO低減量推定用シミュレーションモデルの開発", 交通工学, Vol.31, 1996(掲載決定)

3) 大口敬ほか；"道路線形と見通し視距の関係に関する考察"，土木計画学研究講演集，No.19，1996(投稿中)

4) 田口玄一；"実験計画法"，丸善，1976

5) 越正毅編著；"交通工学通論"，pp.64～65，技術書院,1989

6) 交通工学研究会；"交通管制2次システムの基本プログラムに関する研究"，1973

7) (社)日本道路協会；"道路構造令の解説と運用"，pp.252-264，1983

8) Leiser, D. and Stern, E.; "Determinants of Subjective Time Estimates in Simulated Urban Driving", Transpn. Res. A, Vol.22A, No.3, pp.175～182, 1988

9) Ozaki, H.; "Reaction and Anticipation in the Car-Following Behavior", Proc. of 12th ISTTT, pp.349～366, 1993

10) Oguchi, T., et. al.; "Analysis of Fuel Consumption Structure in Real Traffic Situations", Proc. of 8th International Pacific Conference on Automotive Engineering, Vol.1, pp.305～310, 1995

11) May, A. D.; "Traffic Flow Fundamentals", pp.247～282, Prentice-Hall, 1990

12) Transportation Research Board; "Highway Capacity Manual", Special Report 204, 1985

13) Oguchi, T. et. al.; "Available Concepts of Energy Reduction Measures against Road Vehicular Traffic", Proc. of 3rd World Congress on Intelligent Transport Systems, 1996 (in Printing)